

## 近畿労組への檄

中央労働金庫労働組合  
青年委員 大川 頌太

今春季生活闘争にあたり、金庫が最も重視すべきことは、次世代システム（R・ONE）移行を無事に完了させた職員の頑張りに報いるということである。移行に向けての数年間の会員折衝、庫内研修、中でも証貸口振依頼書回収の業務は膨大なものであり、会員の理解を得るのに相当な労力を必要とした。これらこれまでに経験したことがない業務で繁忙な中でも、他行との厳しい競争の中で業務推進・目標必達を同時に求められ、組合員への負担は非常に大きなものであった。また、移行後もサブシステムに不具合が生じたり、顧客からの苦情対応を行ったりするなど、業務負荷は依然として大きい物がある。このような状況を踏まえ、組合員の奮闘に報い業務への士気を高めるために、一時金要求を4.3カ月と昨年を上回るものとすることは当然である。消費増税を控える中、組合員の生活を守るという観点でも、賃金を増やすのは重要なことである。金庫はこのような状況を理解し、要求に応えるべきである。